

## コンパス薬局横浜西 スキルアップ勉強会

2017.3.9 小西

### 第112回 『ウプトラビ錠 0.2mg 0.4mg』

日本新薬株式会社 木村 清子

参加者：川村先生、味田村、野田、山城、高柳、加納  
渡辺、加藤、小西、高橋、小平

肺高血圧症は肺動脈圧の上昇を認める病態の総称であり、大きく5つに分類される。その5つの分類の中の1つである肺動脈性肺高血圧は生命予後が極めて悪く、患者の約半数が3年以内に右室心不全で死亡するとも言われる。現在国内には2400人ほどの患者がいる。男女比は1:2.6と女性に多くみられ、発症年齢も男女で異なることが知られている。女性では加齢と共に患者が増加して70歳代がピークになる一方、男性では20歳代が多く、40歳代になるにつれて減り、その後70歳代まで増えるという二峰性を示す。膠原病に併発して発症することもある。

#### 【効能・効果】

肺動脈性肺高血圧

#### 【用法用量】

通常、成人にはセレキシバグとして1回0.2mgを1日2回食後経口投与から開始する。忍容性を確認しながら、7日以上の間隔で1回量として0.2mgずつ最大耐用量まで増量して維持量を決定する。なお、最高用量は1回1.6mgとし、いずれの用量においても、1日2回食後に経口投与する。

#### 【特徴】

ウプトラビはプロドラッグであり、体内にて活性代謝物(MRE-269)となり、主にMRE-269がプロスタサイクリン受容体(IP受容体)に作動する。その結果、肺動脈平滑筋細胞内のcAMPを増加させ、平滑筋弛緩及び肺動脈平滑筋細胞増殖抑制を介して、肺血行動態を改善させる。

ウプトラビはIP受容体作動薬であるが、非プロスタノイド骨格をもつ世界初の選択的IP受容体作動薬である。

#### 【副作用】

主な副作用：頭痛、下痢、悪心、顎痛、筋肉痛など

重篤な副作用：低血圧、浮腫性めまい、低酸素症、出血、甲状腺機能異常など

約90%程度は何かしらの副作用が起こる。

#### 【考察】

肺動脈性肺高血圧は難病指定されており、非常にまれではあるが誰もが発症する可能性のある疾患である。また、罹患した際の生命予後の悪さにも驚く。ウプトラビはプロスタサイクリン経路を介して肺動脈圧を低下させるが、その他にはエンドセリン経路による薬剤、NO経路による薬剤がすでに発売されてい

る。希少な疾病ゆえ治療薬も限られてしまうため、ウプトラビのような新薬が出ることで、今まで病態コントロールがうまくできなかった患者さんを救える機会も増えると思われる。通常は大病院の専門 Dr が処方するケースが多く薬局でこのような薬を扱う機会は少ないが、患者さんの症状次第では近隣クリニックでも処方される場合もあるので、知識をつけておく必要性を感じる。まだ新薬のため14日制限があるので少々使いづらいが、投与日数制限が解除されれば、医薬品としての有用性もより高まると思われる。

【質問事項】

Q1：副作用が出た場合は減量もしくは中止が基本か？

A1：軽微な副作用であれば薬を追加して、副作用を抑え込み、投与量を維持することもある。例えば下痢の副作用に対しては、整腸剤とリン酸コデインを追加で処方。それでも無理なら減量もしくは中止というパターンもある。

Q2：通常の降圧剤は効果ないか？

A2：基本的には効果はない。心負荷軽減のためにACEなどを処方する例はあるかもしれない。

Q3：初期症状はどんなものがあるか？

A3：労作時の息切れやめまい、失神などが初期の自覚症状としてある。基本的には治癒はないので、一生にわたり治療する必要がある。

Q4：何が原因で発症するのか？

A4：原因は解明されていない。遺伝的要因もある。